2010/12/18

国際審判　東　乙比古

第 16 回広州アジア大会ボート競技　審判参加報告

1. はじめに

１１／１４－１９に広州／中国において開催された第16回アジア大会に隈元さんと共に審判参加させていただきました。既に隈元さんが詳細な報告を出されていますので、重複を避けて、トラブルメーカー？となった今大会を振り返って報告させていただきます。諸般の事情から本報告書の提出が大変遅れましたことを深くお詫びします。

２．部署と出来事

１１／１４(日)：判定長（Judge at Finish）

・相方の判定員は Mss. Sevara GANIVERA(UZB)で国際審判資格を取得したばかりの女性新人。

・10 時第 1 レースのため 9 時に判定塔に来るよう伝えてあったが、待てども来ない。無線機で問いかけても応答なし(持っていなかった)。Ee 審判長がイラつきながら彼女の所在を私に問うが、知る由もない。ようやくやって来たのはスタート 20 分前の 09:40。手には KF のハンバーガーセット。後に分かったことだが、彼女の父親が UZB のチーム・マネージャーで妹が選手で来ていたことから、UZB のチームテントにでも行っていたのだろう。

１１／１５(月)：主審艇＃４(Umpire boat 4) ２レース

１１／１６(火)：選手計量　(Weighing athletes)

・LW２×敗複１レースと LM２×敗複２レースの計３レース、１４クルーの計量。

・当日の第一レース 10 時スタートの LW２×に出漕する北朝鮮(PRK)が計量所に現れない。他の４カ国は計量開始時刻の 8 時過ぎに全て終えている。ようやく来た時は残り１５分。計量結果は合計で 400g オーバーしている。無線機で Ee 審判長と FISA Delegate の Mike Tanner に声掛けするも応答がない。その時間帯は審判セミナーの最中で、セミナー室に無線機は持ち込まれていなかったとのこと。ここから後の処理は私の個人的な判断によるものであり、ルール上？認められないことを後に反省することになる。

・計量時間があと１５分あったことから、PRK には 09:00 までに(再)計量することを告げ、未だ応答のない Ee さん、Tanner さんに無線機で呼びかけながら時間は過ぎていった。

・09:00、再計量したがまだ合計 200g 超過。その段階で「除外」(DNS)を通告した。
ところが、計量補助の中国女性(３人中２人は元ボート選手)が盛んにクルーに下着を取るようジェスチャーで伝えているではないか。除外通告はしたものの依然 Ee さんとは連絡が付かないことから、クルーが下着や髪留めを外し終えるのを待った。

・その後再再度の計量でも合計で 100g のオーバー。改めて除外を通告したが、この時に初めてクルーマネージャーらしき男が英語を話す韓国人を連れて現れ、説明を求めてきた。「09:00 の時点で 200g オーバーのため除外とする。」ことを伝えると、韓国人は韓国語で通訳してそそくさと帰って行った。自国の競漕相手が減るのだから親身になるはずもない。マネージャーは了承したが選手は収まりが

付かず、計量結果を指差しながら韓国語(朝鮮語)でわめいていた。「我が国には 100g を正確に測れるものはない。」とでも言っていたのだろうか。マネージャーに促されて引き上げる際の私に対する恨めしげな涙目を思い出す。無事の帰国を祈るばかりである。

・後に Tanner さんは私の処置に対して「good」と労いの言葉をくれた。Ee さんも報告直後は OK であったが、その後「本計量は一度だけ。」と注意された。計量所には「予備計量用の秤」が別に一台あり、選手(クルー)は自己責任でコントロールできるのだから「本計量秤による正式の計量」は一回限りであるというのは頷ける。(ルールブックにその点の記述は見つけていない。) なお「本計量秤」は二台あり、前述の各時点での計量値は二台共同様の結果であった。また、計量所には１ｋｇと 100ｇの標準分銅があり、計量開始前と本件の途中でも秤が正確であることをチェックした。(標準分銅によるチェックは艇計量でも行われていた。)

・１１／１４の予選では PRK クルーは合計で 500g 余裕があった。この二日間、彼女達は選手村の美味しい料理を前にして、恐らく制御できなかったのだろうと勝手に想像していた。

１１／１７(水)：主審艇＃３(Umpire boat 3)

・敗複４レースに対して＃３だから一度きりのレース追航である。

・朝、ボート係留所から後進で出たとき既に、カタマランのラダーが直角に曲がったまま動かなくなった。中国人の運転手がオールの切れ端でラダーアームを叩いて直したその時から、不吉な予感がしていた。

・スタートエリア(0m)で３レース目の待機中に恐れていたことが起きた。ラダーが動かない。既にスタート二分前が掛かっていたので、無線機で審判長に事情を伝え 100m 地点待機の Ｍ４に交代してもらった。

・次のレース前にはアームをたたいて修理を終えたため（運転手がそう言った。中国語なので正しくは分からないが。）審判長指示で次レースに就くことになった。ところが、スタート直後 0 レーンから中央レーンにコースを横切って入ろうとするのだが、ラダーが左に切れない。1 レーン、2、3・・・とどこまでも直進して行く。運転手は焦りに焦り、停止するどころかスロットルを上げていく。ついに 8 レーン外のスタートシステムのブーツ位置を示す大きなブイに激突して停まった。無線機で「Big trouble !」にあることを告げ、スペアの主審艇がレースを追航した。結局この日は、なにもすることなく終わった。

・翌朝のミーティングで審判長から、Big trouble では何が起きたか分からないと、冗談交じりに言われた。しかし、第一声の後 Ee さんに、トラブルの状況は説明してあったことを記しておく。

１１／１８(木)：監視(Control Committee)

・入船担当。朝のミーティング後に審判長から艇計量クルーを指定され、それに基づいて通告。

１１／１９(金)：監視長(Control Committee)

・朝ミーティングで審判長が、本日のＣ.Ｃの責任について話していたが、Ee さんの英語を良く理解しきれないまま、確認せずに部署に就いてしまった。特に艇計量の指示が分からず、９レース中の３レース（内２レースは B 決勝）で艇計量を行わずに終えてしまうというミスを犯してしまった。ミスに気付いた以降は上位二クルーを計量した。

・同様の決勝レースがあった前日はあらかじめ計量クルーを指定されていたのに、なぜ今日は指示されないのかをしっかりと確認するべきであった。

・後で聞いた話では、表彰式のある最終日は上位三クルーからいくつ計量するかを監視長の責任で決めているとか。（たとえば、１・２位を取ることにした場合、全てのレースでそのようにする。）これまで参加したＦＩＳＡ大会で最終日にＣ.Ｃになったことはあっても責任者となることはなく、そのことを知らずにいたことを恥ずかしく思っている。
・このミスについては Ee さん、Tanner さんにも報告したが、大きな問題とは思っていないようであった。

３．終わりに

海外に出て毎回感じることですが、英会話力の不足をさらに強く感じたところです。各国の審判の中には母国語訛りのある「英語の達人」も多くいることから、とにかく色々な国の人と話す経験を多く積むことに尽きると思います。今回は隈元さんという達人とご一緒できたため、彼に頼りきってしまいました。この場を借りて御礼申し上げます。

今大会に派遣くださいました日本ボート協会審判委員会・小林委員長を始めとする審判委員の皆様、そして千田総務委員に心から御礼を申し上げます。

以上